

平成大噴火後の生態系の回復

垂木台地は 1990 年から 1995 年の平成新山大噴火からの復興に長い時間を費やした。平成新山の噴火により流れてきた火砕流に何度も襲われた。火砕流とはいえ、熱い、動きの速いガス、岩、灰の混合物である。1995 年に噴火が終息した後、この場所では、地域全体が別の世界のようになり生物もいなくなった。しかしそれも長くは続かず、地面が冷めると苔や雑草が戻り始めた。ボランティアたちが植樹し始め、2003 年には災害の余波と今後の災害に対する備えを研究するために、平成新山ネイチャーセンターが設立された。

火山災害からの復興は著しく進み、ほとんど生き残らなかった木も森で通常みられるよりもずっと大きく育った。多くの動植物原産種が増加し始め、森はまだ完全には戻っていないが、毎年育っている。

土石流と火事に打ち勝った分厚い幹を持つ木を探してみよう。数少ない丈夫なこれらを取り囲むものは噴火から数十年のうちに素早く成長した無数の植物である。自然の中心に囲まれた歩道を辿ってこれらの植物を間近に見よう。

島原半島原産の多くの種がこの破壊に適応している。荒れた火山の土壤に茂り、すぐに花を咲かせ始め、実をならせ、この地域に昆虫や鳥類を取り戻した。木のような大きな植物も負けず劣らず、ボランティアたちは半島全域に植樹して数十年の間生態系の回復を手助けしている。